国立国会図書館　柳原前光関係文書 11

柳原
11

国立国会図書館　柳原前光関係文書 11

国立国会図書館　柳原前光関係文書 11

毛利大膳家老
完戸備後介

毛利大膳家老
児玉内匠助

毛利大膳家老
福原越後守

毛利大膳家老
益田右衛門介

毛利大膳家老
国司信濃守

毛利大膳家老
吉川監物

毛利大膳家老
宍戸備前

54. 8. 9
79W32638

国立国会図書館　柳原前光関係文書 11

鷹山老ゟ下ゟ孫出ゟ相
差出ニ付

毛利大膳父子
毛利大膳家老

右ゟ書状ニ相達し候有ニ付、
下ゟ差出ゟ相達ゟ書ニ
押而来ル廿日ニ、猶出ニ
差出ニ付

宍戸備前
毛利筑前

四月

毛利大膳父子ゟ
利左京毛利治部
異朝大膳家老
猶出ニ
猶出ニ
猶出ニ

相成候付手心得之為
原を以手紙別帋ニ
間差而
有之間敷候得共当年
丁申付ら
胃
別帋ニ通
浮沙汰ニ而於国申
来ル吉日為祝得不
得手之ニ
胃九日
連名
菅野政年
別帋ニ通
達ニ相成ル事

御正式被仰付之旨被
十六日為進發被拝候旨被
二酒井雅樂頭事今度為進發之儀不容易折柄
可被　仰付候處當節不
水戸激之
代激之
当留守被　仰付都而万政事
任被成候間手寧ニ申談一万端
精勤可被致旨被　仰出候
申越候事

四月廿六日

毛利大膳父子裁許之
廿日中渡
奏聞候處
聞食届候旨小笠原
差遣裁許并相續之儀
為可申渡父子并嫡孫
毛利淡路
表ニ可罷出旨
書申遣候何も病気
聞去朝日父子裁許
福原越後國司信濃家名水
斷絶ニ申渡家督
且家政向
鎮靜
猶過激之及挙動
重而届有
追々可差置
奏聞已上

毛利左京
嶋表ニ
嶋表ニ
申越候

三條大橋制札場張紙　　徳川家茂

右者先達上洛之後従
天朝被
仰下候筋之儀有之候間
勅命等奉遵守姿可相
表候
終虚喝を以て奉を左右よ奉守
萬端因循に行過外夷拒絶之判断
限ホニ至迄
歟聞を歎延
汁及ひ押而帰府之節ハ領地ニ生る不良
男山
相撲罷在候ハヽ俄ニ虚病をうま

本間精一郎

世者ゝ深令実申迄候無之候
虚飾を以て立入候を或ハ士高貴ゝ
両方ゝ従ゝ入候を或ハ士高貴ゝ
三備を被ゝ従ゝ候ハヽ庶長ゝ
離向ゝ被ゝ候ハヽ庶長ゝ
貨殖を貪り一向ゝ
雅お筆ゝ以候ハヽ
禍害可生候ハヽ
如件

月

日家政向引受取締之儀ハ
鎮静ニ候ハヽ
猶過激ゝ及候ハヽ
重立候者ゝ
追々可置下候旨
奏聞ニ已上

国立国会図書館　柳原前光関係文書 11

萬流同倫ヲ図ル実ニ拒絶スル能ハス乃チ
限ホニ至ル　　獻聞ヲ歎延
汎ニ及ヒ甲ヲ帰有ラ其領出生ル不意
男山　　行幸ニ際シ即チ供奉
相撲罷在ルノ処俄ニ虚病ヲ構ヒ
且ツ橋中納言等ト於テ
御開勅ニ有ル場合ニ且ツ出ヤ
志如在ノ上ヲ存ル歳如ク次ヲ其儘
倉岡ノ守岡部駿河守ヲ始メ奸吏
共数多有ル中ニ仲ノ前掃部安藤
對馬守ホニ遺志ヲ継賄賂ヲ以テ種
々奸謀ヲ行ヒ実以テ詔勅ヲ歎不届ニ至
仍テ右ノ次第ヲ以テ誅戮ニ処ス以テ其大樹ヲ
下ニ未若年ニシテ幼主ヲ輔佐シ諸事一官吏共ニ
朋中ニ出ル叛　相　和受格別寵愛大ニ沙汰
令寛免ノ挙速ニ文徒ニ罪状ヲ糺
明ニ可行處ノ　　於今延引
出旬日悉可天誅ものや

　　文
　　四月十七日

出羽田左兵衛。権大尉事
大逆賊。長野主膳ヲ臂ノ腹。
　　不
而ノ前ニ請ヲ好曲ヲ。相ヒ
天地不可容大ヲ好賊ヲ
依之ヲ誅戮ヲ令梟首ヲ者也

　　文久二壬戌七月　日

右ノ文面ヲ以テ諸中ヲ令ヲ
張有ラ其ヲ趣ヲ舎ヲ不ヲ
軍ヲ右ノ各人ヲ一舎ニ

右之文面正當之御中之義御尋ニ付
猶有之候ハヽ兎舎ニ而御帰朝ニ付
御一人ニ一舎ニ而

喧々不法閙次第ニ
ニ事而國家ニ大
名ヲ大勢ヲ以テ
不閙ニテ四方騒
至當ノ雅ヲ以テ
大成ル五ヶ條ノ
以當ル年名ヲ以
此明着ヲ以テ
ヲ以テ討ヒ謂ニ
世ニ諸藏ヲ以テ
場合ニ相聞ニ
大勢ニ
命令ニ
斷申上ル
年名ヲ以テ
申渡ル

四月九日 江戸
會屋ヲ以テ
ヲ徒黨ヲ
聞ル寺ニ
最早ニ
座ル右ノ
及ル日ニ
上ル如ク
依テ戸川主馬
重申ル
書ヲ
轄ヲ手配
申上ル

国立国会図書館　柳原前光関係文書 11

国立国会図書館　柳原前光関係文書 11